



## (株) ソニー・ミュージックエンタテインメント 1999年

### 1999年のレコード業界

1999年(株)ソニー・ミュージックエンタテインメント(SME)は、依然として日本のレコード業界で群を抜くトップを走っていた。

音楽業界全体としては、ここ数年業績不振に悩んでいた。特に東芝EMIやポニーキャニオンなどの老舗のレコード会社は低迷していた。東芝EMIは、  
5  
かろうじて1998年12月にデビューした宇多田ヒカルの大ヒット<sup>1)</sup>のおかげで一息ついてはいたが、他の企業はリストラに追われている状態だった。

過去二十年間業界トップのSMEも、音楽に関しては壁に突き当たっていた。99年3月期決算で連結ベースでは、前年比微増の売上高2,2676億円、経常利益359億円(前年比84%増)と好調だった。しかし単独決算では売上高1,082億  
10  
円(前年比8%減)、営業損失3億円(前年は営業利益109億円)、経常利益22億円(同91%減)に落ち込んでいた。

営業赤字に陥った理由として、丸山茂雄社長は次のように述べていた。

「収益の約六割を売上トップテンのアーティストで稼いでいるが、そのメンバーはこの二、三年で一変した。しかし急に入れ替わりすぎたために、次に  
15  
トップテン入りをうかがう層が薄い。この層を育成するために販促宣伝費が嵩んだ」<sup>2)</sup> ここ数年の業界の傾向として、大ヒットが出る一方で、それ以外の曲は全く売れないという、二極化現象が現れていた。

また音楽CDの売れ行きが鈍っている最大の要因として、SMEは「最大のライバルはゲームと携帯電話」<sup>3)</sup>と見ていた。  
20

こうした中で例外的に、最近まで急成長を遂げたのが新興勢力のエイベックスやトイズファクトリーであった。特に今をときめくプロデューサー小室

---

<sup>1)</sup> デビュー・アルバム「First Love」が、過去のCD販売記録を破り、売上600万枚を達成した。

<sup>2)</sup> 日経産業新聞1998年10月30日

<sup>3)</sup> 日本経済新聞1998年2月14日